

## おそれ

私たちが火山の噴火とか、台風の猛威に出くわすと、自然の底知れない力を思い知らされます。いくら科学が進歩していても、どうしようもない力が働いていることに気づくのです。そのような時、危険を感じ、こわいと思うのです。

ところで、日本では、昔から山の神とか、木の神とか自然の力を拝んできました。これは、自然の脅威に対してただこわがるだけでなく、なにか自分たちの力のおよばないものを感じ、うやまう心からでてき

たものです。私たちのまわりに、自分たちの力のおよばないものがあるか、考えたことをつぎの空白に書いて下さい。

## 弟子たちのおそれ

今日の福音では、弟子たちがイエスの行動に対して非常におそれたと伝えられています。ところで、弟子

たちの感じたおそれはどのようなものだったのです

ようか。弟子たちは自分たちの予想すらできない

出来事に出くわして、不安を感じていたにちがいありません。

ヨブ記では、「主を畏れ敬うこと、それが知恵」で

あると語っています。自然の脅威に対するおそれから、

自分の無力を知り、神の働きに信頼するようになる

と、こわいという気持ちから、うやまう心がわいてくるのです。

弟子たちも始めはこわかったのだと思います。しか

し、時間がたつにつれて、イエスをうやまう心が育つ

ていったのだと思います。

誰でも最初は不安なものです。でも、時間をかけて

人とかかわっていくなかで、相手を信頼することがで

きるようになります。そうすれば、うやまう気持ちも

わいてくると思います。

